

カトリックさいたま教区サポートセンター ボランティア活動報告⑥

第21チーム・2011年8月18日(木)～8月23日(火)

■湯本サポートステーション (福島県いわき市) (信徒女性2名、シスター4名、神学生2名、計8名)

金曜日午前中は物資整理を行ったが、整理のために必要な道具の数が少なく、作業が滞り気味だった。午後の傾聴は「みみ」の4人を中心に4つのグループに分かれて活動したが、1グループの人数が5～6名となり、傾聴するにはやや過多に感じた。今後は「みみ」やいわき教会の方々など地元の方々は、継続的に関わる必要のあるご家庭へ金曜以外に傾聴活動に行く、一方さいたまグループは新規の方々のニーズを調査するなど役割分担を考える必要があるように思う。

現地では、地元住職の方々が、洋服や子供のおもちゃなどを宅配する姿をみかけた。必要物品を宅配することも大切に思うが、生活の質を上げるため今後はより物品の選択肢が広がるような配布方法を考えることが必要ではないだろうか。子どもたちが、おもちゃやボランティアチームの一人が作ったマジック・バルーンに大喜びしてくれた。うれしかった。

土曜日はほぼ一日中仮設住宅にて傾聴する。3班に分かれて活動。午後3時頃より、仮設住宅でのお祭り準備の手伝いをした。子どもたちがいたので、先日引き続きマジック・バルーンをプレゼント。自力で作る子どももいて、とても楽しそうだった。



日曜日主日のミサ後、小名浜教会にて物資の整理をした。2回目なので大分作業に慣れ、短い時間の割にはかどった。中にはもう処分するしかないかもしれないというものもあり、残念である。ガラス、瀬戸物の梱包の際には、割れないよう一枚一枚包んであるほうがよい。中で割れてけがをすることがある。午後4時頃にはアク

アマリンふくしまにて復興フェスティバルに参加した。

月曜日の午前午後通して、小名浜教会で支援物資の整理をした。衣類には古着も多く、しみ、ほころびなど廃棄しなければならないものがたくさん出てくる。最初からいわき市のゴミ分別の方法に従い、ゴミ袋なども用意して行えば、ゴミ分別の2度手間、3度手間が省けそうだったと思った。

1週間大きな怪我もなく、無事ボランティアを終えることができた。サポートスタッフの皆様に心から感謝申し上げます。

第22チーム・2011年8月25日(木)～8月30日(火)

■湯本サポートステーション (福島県いわき市) (信徒男女各1名ずつ、シスター1名、助祭1名、計4名)

初日は教区事務所でのオリエンテーション後、現地へ出発し、被災地を訪ねた。既にガレキなどきれいに片づけられていた。残った家屋も「壊します」という立札が出されたりしていた。大きく倒壊してそのまま放置されている家の庭に、大輪のひまわりがりんりんと咲いていて、心痛みつつも、かすかな希望を見つけたような…。夜はトアン助祭作成の湯本ステーションのDVDを観た。

次の日は、仮設住宅へ2つのグループに分かれて、湯本ステーションのチラシのポスティング(配布)を行った。訪問した仮設住宅には避難所を転々とされた方が多いようだった。まだ入居されて日が浅く、ボランティアもほとんどいないように思われる。同日は、保健士さんと消防士さんが訪問していた。集会所もまだ活用しておらず、物置場になっている。仮設住宅は旧式で、車いす対応のスロープ付きの玄関はひさしも短く、囲いもなく、雨が降り込んで外出しづらいため、何軒かは自費で囲いを作っていた。10人ほどの方々が住宅のまわりの草刈りをしていて。私たちが対面できた方々は一様に好意的で、継続した訪問を承諾してくれた。午後には野菜などを出店していた石川町の方々が「石川町に3か所ぐらい残っている避難所が、今月末で閉鎖されそうだ」と話していた。午後1時半には久ノ浜地区の慰霊祭奉奠祭花火大会に参加した。

日曜日午前のミサ後は、湯本教会の信者さんとの交流したのち、昨日に引き続き、同じ地区へ傾聴にでかけた。日差しが強く、少々疲れていたが、昨日伺ったお宅に再び訪問した組では、相手方がボランティアに優しい心遣いを下さり、かえって心苦しく、深く関わることのできない自分の立場に悩んだ。もう一組は、昨日訪問できなかったお宅に伺った。今日は手土産を持参した。次のボランティアの方につなげていけるよう、温かい関係を持つよう努めた。今日でこの地区のお宅は、一通り訪問し終えた。

最終日の月曜日は、2組に分かれて傾聴した。雇用促進住宅で独居老人を探して歩くがいなかった。むしろ、多くが大家族構成で住居が狭いことに困っている様子だった。身体の不自由な方（車イス）の方がおられたが、階段が多く、お世話する方も大変だと思った。



久ノ浜地区慰霊祭奉奠祭花火大会の様子①
ガレキが撤去された、だだっ広い広場で行われた。



久ノ浜地区の慰霊祭奉奠祭花火大会の様子②

第23チーム・2011年9月1日(木)～9月6日(火)

■湯本サポートステーション（福島県いわき市）
（信徒女性2名、助祭1名、計3名）

木曜日、教区事務所でのオリエンテーション後、台風
の強い雨の中を現地に向けて出発。現地到着後、ステー

ションで今までのボランティアが残した資料を見ながら、
今回は台風の接近で傾聴にでかける事も難しそうなので、
小教区から集まったタオルなどを整理し、戸毎に渡せる
準備をすることにした。夜、ミーティングの後、トアン
助祭作成のDVDを視聴し、話を聞く。

金曜日、前日行けなかった被災地の久ノ浜、四倉へ視
察に向かう。いわき教会にて“みみ”と打ち合わせ。仮設
住宅へ4班に分かれて訪問。傾聴し終えると、いわき教
会で分かち合いをし、ミーティングをして一日を終えた。
この区域の仮設は同地区出身者でまとまっており、訪問
すると他の家からも人が出てきて一緒に話すなど、和気
あいあいな雰囲気だった。

土曜日、前日に約束した水を届ける。ご近所の3人の
方と出会い話を聞く一避難所から仮設に来た人と親類宅
か入所した人とでは、物資支援などで違いがあるそうだ。
彼らの話を聞いていると、雨が降り出したので帰る。小
名浜教会で支援物資の在庫を確認し、預かってくる。雨
が強くなったので、ステーションで、タオル・セットを
作成。

日曜日、晴天につきミサ後、小名浜港の被害を視察。
港は今だ補修されていないが、漁船は多くあった。市場
は町中に移転。昼食後、仮設住宅を訪問。そこでは津波
の中に残された病床の夫と妻の体験を傾聴した。生々し
い体験に夫婦愛やご近所の方々との交わりなど推し量る。
手持ちの物資を渡すと皆一瞬の驚きと感動を見せ、帰り
にジュースなどを持たせてくれた。皆心のふれあいを実
感。前回ボランティアに来た時に訪問した方を訪ねた。
喜び合い色々話をし、なかなか切り上げられなかった。

月曜日、仮設住宅といわき教会を歩き来し、資料整理。
訪問して感じたことは地域間の絆の強さ。いつも2～3
人集まって話している和やかな姿があちこち見られる。
天候に恵まれた日の素晴らしい夕暮れの風景の中では、
杖をついて散歩するお年寄りの姿が、被災・困難を忘れ
させるようにのどかに映っていた。6か月を迎えようと
する今、色々なギャップをどのように埋めたらよいのだ
ろうか。訪問の限りでは早急な必要物資は特別にないよ
うに見える。町毎に入所している仮設ではご近所付き合
いもうまくいっており、今後は皆が集まって何かできる
ような場所が必要では?と思う。